

ACCU news

Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO

特集1 図書開発事業を振り返って

子どもたちに共通の読み物を……2

特集2 グローバル社会のリーダーをめざして! (高校模擬国連事業)……6

韓国教職員招へいプログラム……8

国際教育交流事業報告会……8

ユネスコスクールリーダーシップ研修……9

国際ESDワークショップ……9

GAPパートナー会合in コスタリカ……10

コラム「アジア東奔西走」番外編 (コスタリカ)……10

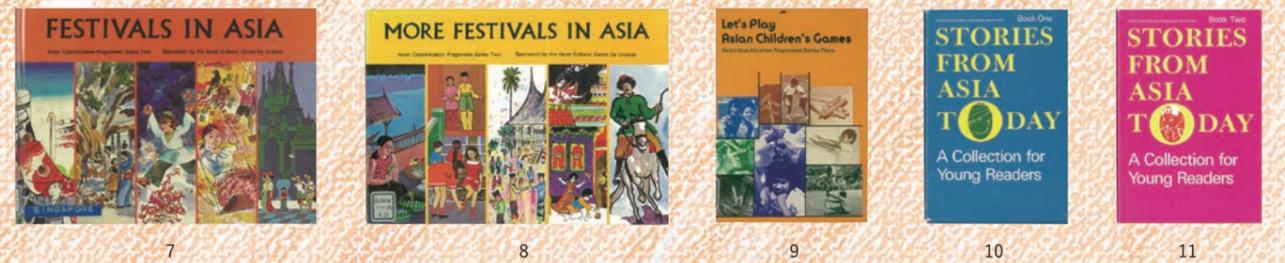
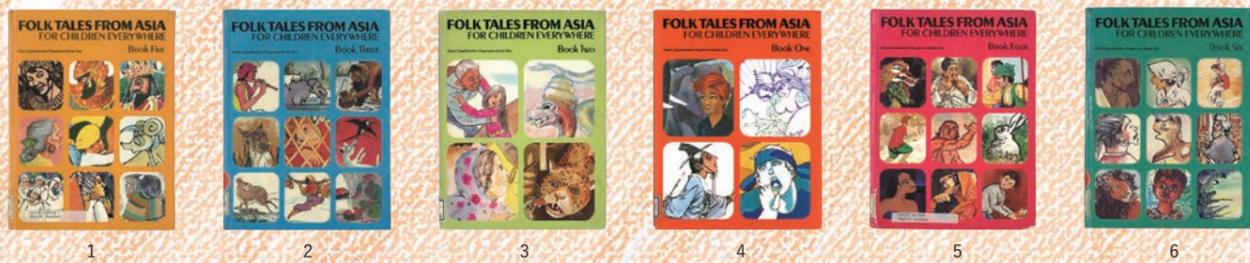
活動メモ……11

No. **405**
2018年7月号



ACCU

Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO



特集1 図書開発事業を振り返って

子どもたちに 共通の読み物を



2018年秋、ACCUは1969年から事務局をおく東京・神楽坂の日本出版会館から他の出版関係団体とともに東京・神保町へ移転します。この機会に設立当初の図書開発事業を振り返り、その柱の一つで、1970年から始まった「アジア・太平洋地域共同出版計画」*1 Asian-Pacific Co-Publication Programme (ACP) を紹介します。

ACCU事業としては終了しているプログラムですが、現在も各国語版はインドや日本国内で出版され続けています。多くの方の英知と情熱と努力が結集し、協力の産物である作品は今も健在です。特に昔話や伝統、文化は古くなりません。手にとって読んでいただければ奥深さを実感されるでしょう。ぜひ活用していただきたいと思います。

ACPは、ACCUの特徴である共同事業方式を採用しました。これは、対象地域各国から専門家が集まり、ニーズに基づいて企画し、その提供された資料(原稿)を編集してマスター版(英語)を制作。各国はそのマスター版に沿って自国語版を完成させ普及、活用する方式です。ACPの目的は子どもたちに質の高い読み物を届けるためになるべく安価で出版することでした。ユネスコと日本政府、出版界、民間からの助成等多方面の協力と連携で実施され、ACCUは事務局として会議運営から制作までのすべての工程を担当しました。国を超えた共通の読み物という高いハードルを関係者全てが未来の世代のためにという思いを共有

することで対応していったことが報告書などに見受けられます。

テスト版制作、第1回企画編集会議(1973年)の後、ACPとして最初に作られたのがFolk Tales from Asia『アジアの昔話』(第1巻1974年)です。その後2001年のMeet My Friends!『アジアのともだちに会おう』までの作品マスター版の表紙と日本語を含む各国語版一部の表紙を掲載しています。ACPの多様性を感じてください。

このプログラムに開始時から中心的に関わられた松岡享子氏とACCU職員として担当された田島伸二氏にACPの意義と成果、今振り返って思うことを寄稿していただきました。

奇跡のようなアジア共同出版計画に携われた幸せ

公益財団法人東京子ども図書館名誉理事長、児童文学者 松岡 享子

先日、子どもの本の関係者が20人ほど集まって、『アジアの昔話』(全六巻福音館書店)の読書会をした。ご存じ「アジア共同出版計画」(ACP)の第一作の日本語版である。それを機会に、この本ができあがるまでのことをいろいろ思い出していたのだが、考えれば考えるほど、この共同出版計画という事業は、実現したのがふしぎなくらい、ユニークな企画であったと思えて来た。

言語も、地理的条件も、文化的背景も異なる多くの国の代表(それも、けっして子どもの本の専門家ばかりではない)が集まって、共同で一冊の本をつくる。今考えると、なんと大胆な、冒険的企画であつたらう。各国から送られてくる原稿と画稿は、たとえ質のばらつきがあつたとしても、まったく平等に扱うことを原則に、しかも、一冊の本としてまとまりのある構成をもち、読みやすく、美しいものになるよう編集することが求

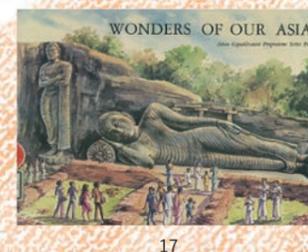
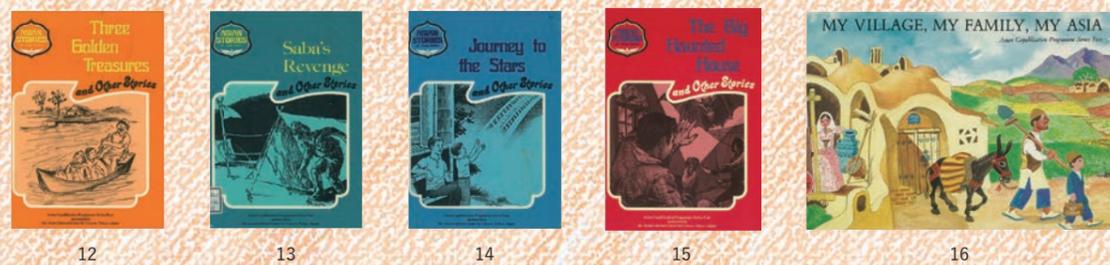


東京子ども図書館にて

められる。その作業を、中央編集委員*2とACCUのスタッフが担う。こうしてマスター版が出来上がっても、それは計画の半ばにすぎない。それをもとに、各国が自国版を制作・刊行し、実際に子どもたちの手に渡って初めて当初の目的を達するのだ。こんなめんどろな

手順を踏んだ本づくりが、30年にもわたって行われ、29タイトルの本が、42言語で、400万部も刊行されたとは！これは奇跡といってもいいのではないかと。縁あって、このような歴史的な事業に携わることの出来た幸せを、今、しみじみと感じている。

東京子ども図書館の機関誌「こどもとしょかん」157号では『アジアの昔話』とユネスコ・アジア太平洋地域共同出版計画の特集をしています。また、同館かつら文庫では、本年10月下旬まで、関連する展示を公開しています。ご購入、ご見学を希望の方は同館(TEL: 03-3565-7711)にお問い合わせください。



①～⑥ Folk Tales from Asia 1～6 (『アジアの昔話』1～6 福音館書店) ⑦～⑧ Festivals in Asia, More Festivals in Asia (『アジアのお祭り』1～2 講談社) ⑨ Let's Play Asian Children's Games (『ラムラムリップ』 蝸牛社) ⑩～⑪ Stories from Asia Today 1～2 (現代アジア児童文学選1～2 『バリおくさまのバス旅行』、『ノイのくじらつり』 東京書籍) ⑫～⑮ Asian Stories for Young Readers 1～4 (現代アジア児童文学選3～4 (『サンゴ礁軍団』、『サバの思いがけい』) ⑯ My

Village, My Family, My Asia (『わたしの村、わたしの家-アジアの農村-』 福音館書店) ⑰ Wonders of Our Asia (『すばらしいアジアの遺跡』 東京書籍)
※英語マスター版タイトル、()内は日本語版書名と出版社

*1 当初はアジア共同出版計画と呼ばれていた。

*2 加盟国からの参加者のうち、児童図書館の専門家数で構成される。

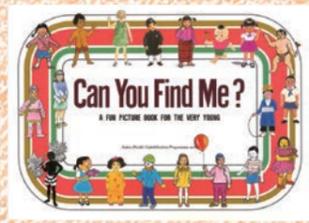
*3 国際識字記念の『Guess What I'm Doing!』を加えて30タイトルを紹介している。



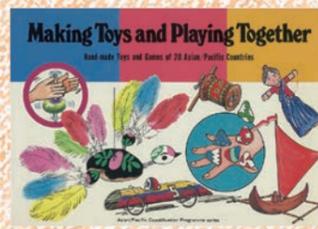
18



19



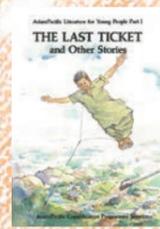
20



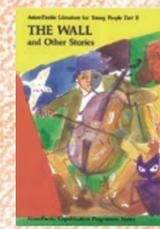
21



22



23



24



25



26



27



28

夢を実現したアジア・太平洋地域共同出版計画

寓話作家、大学教師、元ACCU図書開発課長 田島 伸二

このプログラムが、かつてアジア地域に存在していたことはまるで夢のようです。国境を超えて、宗教の違いを超えて、文化の差異を超えて、ACCUがアジアの国々と共同で育んださまざまなアジアの子どものための本が、アジアの専門家たちによって生み出されていたこと。アジア各国で採話された昔話が、英語版をもとに、アジアの何十もの言葉で翻訳出版されて、それから再び語り手の言葉によって蘇ったこと、絵本、短編、環境など——アジアの豊かな精神世界が次々に形成されていた瞬間でした。

そもその始まりは1966年、ユネスコが、世界で最初に東京で開催した「アジア地域出版専門家会議」が始まります。会議ではアジア地域の出版活動は非常に低調で、特に児童書の不足が深刻、図書のはなはだしい不足が教育振興や社会的・経済的な発達を極度に妨げているとの指摘をしたのです。参加者たちは出版状況を批判するだけでなく、会議で実際にアジアの図書開発の基礎を堅

固に築くことに見事に成功・ことごとく実践していったのでした。この会議の議長をつとめた（当時の日本書籍出版協会会長・講談社社長）野間省一氏は、この会議の勧告を受けて、現在のユネスコ・アジア文化センター（ACCU）の前身であるユネスコ東京出版センター（TBDC）を設立し、1970年から「アジア地域共通読み物作成の国際会議」を開始したのです。第1回会議には7か国、第2回会議には16か国が参加。そして1971年には新生ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）が誕生しました。1979年からは太平洋地域が加わって、プログラム名は「アジア・太平洋地域共同出版計画」（Asian-Pacific Co-Publication Programme (ACP)）と呼ばれるようになりました。

この計画は、アジア・太平洋地域の出版を盛んにすると同時に、地域の子どもたちが共通の読み物を読むことで、お互いの理解を深めようという目的もあり、子どもたちへ向けて文字どお



広島にて

り「アジア人の、アジア人による、アジア人のため」の本作りが始まったのです。こうして1972年から2002年まで30年間にわたって、『アジアの昔話』、『アジアのお祭り』、『わたしの村、わたしの家』、現代アジアの短編集、環境読み物など30種類の作品が、アジア30か国から、実に42種類の言葉で、400万部以上が生み出されてきたのです。現在、ACCUのプログラムは終了していますが、作品は今なおアジア各国で子どもたちに親しまれています。世界出版史上でも極めてユニークなこのプログラムは、アジア各国の児童書の発展にも大きな影響を与え、他のラテンアメリカ地域やASEAN

地域でも共同出版計画を次々と生み出すと同時に「野間国際絵本原画コンクール」の創設やICLCが行ったインドとパキスタンの「平和絵本共同出版」にも大きな影響を与えました。

私は1977年にACCU図書開発部に入り、1997年まで「アジア共同出版計画」や「識字教材共同制作事業」などを、同僚と共に担当してきましたが、このプログラムで出会った各国の専門家たちからは実に多くのことを学びました。ACCUの同僚たちはこのプログラムをいつも誇りにし、懸命にこれらのプログラムを育て上げていったのでした。この共同事業では、それぞれの国の社会体制や文化などの違いから、参加者間で激論も起き、ある絵本では、主人公の親しい犬が描かれたことについて、「わが国では犬は不浄の動物とされているから、犬ではなく猫に変えてほしい」という要望もありました。こういうことが頻繁にあり、例えばデザインするときの表紙の色彩についても、「グリーン色は聖なる色なので使用は不可」と社会体制や価値観の違いが大きな問題となったのです。これこそが国際理解や相互理解が必要な分野なのですが、1982年の企画会議で、アジアの文化遺産の絵本の編集を進めていたとき、イランの原稿の最終チェック

で、子どもがモスクで祈っている言葉を、「戦争の終結」ではなく「戦争の勝利」へ修正して欲しいという要請がありました。そこでACCUでは、共同出版の目的などを伝えて粘り強く交渉、最終的にイランからは「戦争の終結を祈さまにお願いしました。」と修正した文章が送られてきたのでした。こうしたやりとりが常に存在しながら共同出版は続いたのでした。

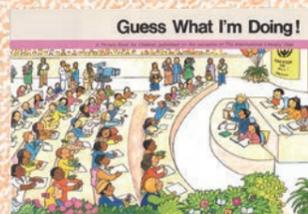
いつも大きな課題は、会議で決まったテーマに相応しい質の高い原稿内容を、参加国が果たして準備できるかということでした。20か国が集まった共同出版ではこれが最も大きな課題だったのですが、なかでも『アジアの昔話』は、共同出版の特徴や長所が最も生かされたテーマでした。それは松岡先生が、広報誌「こどもとしゃかん」に詳しく書かれていますが、とても豊かな世界をもつアジアの昔話が、採話や収集から現代によみがえってくる瞬間でした。また『どこにいるかわかる?』の絵本は、アジアのさまざまな風俗や暮らしの中での絵探しという楽しい絵本でしたが、各国の印刷事情で、微細な印刷ができないこともあって、国によっては多くの課題を残しているように思えます。そして現代アジアの短編集は、アジアの現代に生きる子どもたちの世界を生き生きと伝えて

くれました。私は、ACCUが始めたこのプログラムがアジアだけでなく全世界で、多大な喜びや幸せを多くの子どもたちに与えてきたのを見てきました。世界は今、電子出版など大きな変革時期に直面していますが、今後も読書を通じての子どもたちの笑顔や喜びを作り出す必要性が変わることはないでしょう。ACCU初代理事長の伊藤良二氏は、ユニークな人柄でいつもユーモアで会議をリラックスさせ、松岡享子氏は、いつもプログラムの中心で、子どもの本に面白みを加えられ、松居直氏は、いつも筋の通ったアイデアを出されていたこと、実にたくさんの内外の専門家たちが、力を合わせて働いた時間でした。その中でも特にアジアの編集委員だった各国の専門家たちの貢献を忘れることはできません。

私は思うのです。今の時代の深刻な摩擦や緊密な絆を考えると、ACPプログラムは終了ではなく、次世代のためにも是非ずっと続けて欲しい。夜を徹してアジアの作家、編集者、出版人などが真剣に語り合い、国境を超えてアジアの子どもたちのための本作りに汗を流してきた、おもしろくて多様なイメージーションを育てる「アジア・太平洋共同出版計画」が、再び21世紀に蘇らんことを心から願っています。



29



30



31



32

⑬Laughing Together (『アジアの笑いばなし』東京書籍) ⑭Together in Dramaland (『みんなでドラマランド』晩成書房) ⑮Can You Find Me? (『どこにいるかわかる?』こくま社) ⑯Making Toys and Playing Together (『作ろう、遊ぼう』こくま社) ⑰Read Me A Story! (『ライオンとやぎ』こくま社) ⑱Asian-Pacific Literature for Young People 1~2, The Last Ticket and Other Stories, The Wall and Other Stories (『アジアからの春風』講談社) ⑲~㉔TREES, WATER, THE SUN, THE EARTH (『木』小学館、『太陽』

ポプラ社) ㉕Meet My Friends! (『アジアの友だちに会おう!』東京書籍) ㉖Guess What I'm Doing! (『なにをしているかわかる?』朝日新聞社) ㉗30の各国語版 ㉘ACPの絵本、読み物、環境シリーズなどの各国語版

ACPの絵本、図書は閲覧・貸出可能です。各国語版で在庫があるものはお分けすることもできます。ご希望の方は総務部 (TEL:03-3269-4435、e-mail:general@accu.or.jp) まで。

*4 野間省一氏の寄附を基に設置された基金により、1978年から2008年まで隔年で16回開催。アジア・太平洋、アフリカ、アラブ、ラテンアメリカの新進の画家やイラストレーターに発表の場を提供し、絵本出版の進行を図ることを目的とした。*5 国際識字文化センター、田島氏が代表を務めるNGOである。*6 児童文学者、福音館書店相談役。*7 平和の文化国際年(2000年)記念 アフガニスタンの子どもたちのために

パシュト一語とダリ語版も出版された。*8 国際識字年(1990年)記念。ACPの方式を活用して42か国で65言語の各国語版が出版された。

グローバル社会の リーダーをめざして!

ACCUは、2012年から主に大学生で構成するグローバル・クラスルーム日本委員会(JCGC)と共同で、全日本高校模擬国連大会を毎年11月に開催し、同大会で優秀な成績を収めた高校生を日本代表としてニューヨークで5月に開催される高校模擬国連国際大会に派遣しています。

また、2017年からは高校模擬国連活動の入門編として、高校模擬国連活動の普及に熱心な教員からなる全国中高教育模擬国連研究会(全模研)とともに全国高校教育模擬国連大会(AJEMUN)を開催しています。

高校模擬国連で養う力

～人間力を兼ね備えた未来のグローバルリーダーたち～

国際教育交流部 河口 枝里子

日本代表団派遣生として、6校11名の高校生がウルグアイ東方共和国の大使となり、ニューヨークで5月11、12日に開催された高校模擬国連国際大会に出場しました。今年は、鳥取県の公立高校からの出場も加わり、これまで関東関西の都市部の学校からの出場が多かった中、高校模擬国連界に新しい風を吹き込んでくれました。

挑戦する交渉力

高校模擬国連国際大会当日、前日の緊張した表情とは違って変わりキリッとした顔の派遣生。皆円陣を組んで「おー!」と気合を入れて各議場へ散らばりました。派遣生の中には、海外経験がある者、ない者がいますので、もちろん英語が満足に使えず悔しい思いをする者もいたと思います。しかし、言語の壁を越え議場を動かすこと、すなわち交渉力に焦点を当てられていました。多くの議場では、発展途上国のとりまとめ役として、派遣生が務めるウルグアイ大使が活躍していました。派遣生がグループの中心で決議案を率いている様子、中にはホワイトボードを持ち込み各国大使の意見を収集する場面も。また、各国大使の中心となって活躍することだけに重きをおかず、議論

模擬国連とは…
一国の国連大使になりきり、担当国の政策や歴史、外交などに照らし合わせ各国大使と交渉し、国際社会における解決策を見出します。国際問題へ理解や交渉力を養うため、世界各国の教育プログラムとして行われています。



国連事務次長中満氏訪問



他国大使と交渉中の鳥取西高校生徒

2018派遣スケジュール

5/8(火)	NY到着、UNWOMEN訪問
5/9(水)	UNICEF訪問、国連日本政府代表部大使星野氏訪問
5/10(木)	国連事務次長・軍縮担当上級代表中満氏訪問、JETRO訪問
5/11(金)	高校模擬国連国際大会出場
5/12(土)	高校模擬国連国際大会出場、閉会式(国連本部総会議場)
5/13(日)	NY出発
5/14(月)	帰国

- 最優秀賞** 海城高等学校
2014年以来、本派遣支援事業で2度目の最優秀賞受賞
- 優秀賞** 渋谷教育学園渋谷高等学校
- 優秀賞** 頌栄女子学院高等学校
- 他参加校** 鳥取県立鳥取西高等学校
浅野学園高等学校
桐蔭学園中等教育学校



他国大使と桐蔭学園中等教育学校の生徒



国連本部会議場で星野大使を囲んで

自ら考え行動する 派遣生の強さに圧倒されました

JCGC 鈴木 雅子さん
2016年派遣生、日本大学生物資源科学部獣医学科2年生

「原点回帰」という言葉がありますが、私にとってこの模擬国連事業に再び関わった経験はまたとない良縁でした。

2年前、全日本高校生模擬国連大会で10期派遣生として選抜され、高校生模擬国連国際大会に参加してから、今回、グローバル・クラスルーム日本委員会の理事として12期派遣団を引率させていただきました。

最も印象に残ったのは、頭を痺れるほど使った時のことです。ただの異文化交流旅行としてだけでなく、日本代表として何かを成し遂げるために、壁にぶち当たって現状を打破しようとしたり、どうすれば上手く議論が進むか考えたりして、目標に向けてなり振り構わず必死に考え、行動する派遣生の姿を見て、最終的に抛り所となるのは、英語力や交渉力などの上辺のものだけでなく、自分で考え行動したことによる強さなのだ、改めてそのエネルギーに圧倒されました。

このような機会を作っただけでしたこと、またこの事業を、いつも温かいサポートで支えてくださっているACCUの皆様を筆頭とした、全ての関係者の皆様にも今回もお力添えいただけましたこと大変感謝しております。ありがとうございました。



第12回全日本高校模擬国連大会開催決定!

2人1チームで各国の国連大使になり、国際問題を多角的な視点から考えられるグローバルリーダーを目指します!
日程: 11月17日(土)、18日(日)
場所: 国際連合大学(東京都渋谷区)
※詳細は、後日ACCUのHPにて公開します。
※書類選考あり



本事業は法人、個人のみならずのご協賛、ご支援で支えられています。グローバルに活躍しようとする多くの高校生を育むためにも、趣旨に賛同される皆さまはどうぞ事務局までご連絡ください。お問い合わせ: 国際教育交流部 TEL.03-3269-4498

入門編 白熱する“高校生の 高校生による高校生の大会”

国際教育交流部 岡野 晃一

模擬国連に興味があるけど何から始めればいいのかわからない、始めてみたが自分たちのレベルがわからない、スキルアップして11月の全日本高校模擬国連大会に臨みたい、といった高校生たちの熱い思いに応えるべく、2017年8月に第1回全国高校教育模擬国連大会を開催しました。また、議場とは別に交流会も実施し、全国から約400人の高校生たちが悩みの解決や情報交換の絶好のチャンスとなりました。この大会は、運営する側も高校生という点が特色であり、彼らは、総務広報・運営受付・フロントアドミニの3セクションに分かれ、議場で議論を繰り広げる大使たちのサポート役にまわります。

その「高校生の高校生による高校生のための大会」の第2回大会は、8月6日(月)、7日(火)に品川区立総合区民会館「きゅりあん」にて開催される予定です。

ただ、この大会名の「全国高校教育模擬国連大会」。漢字ばかりで読もうとすると噛んでしまいませんか。そこで事務局では、英語表記の略称であるAJEMUNをこれから流行らせようとしています。本大会の参加申し込みは5月末日で締切となりましたが、見学については引き続き大歓迎です。是非お越しください。



第1回全国高校教育模擬国連大会(AJEMUN)

韓国教職員招へいプログラム

「愛してる」で最高のおもてなし

国際教育交流部 伊藤 妙恵

本事業は今年で18回目を迎えました。全体で97名の韓国教職員訪問団は3つのグループに分かれ、各地で温かい歓迎を受け、訪問地の一つである愛知県では、訪れた韓国教職員の心を揺さぶる、熱い「ラブコール」がありました。

愛知県教育委員会が主催した歓迎交流会には韓国訪問団のほか、県教育委員会の管理職員や翌日訪問する学校の管理教員が列席。韓国訪問団による笛の演奏、日本でも有名な韓国の歌手キム・ヨンジャの曲に合わせ、美声をもつ校長の歌と韓国若手教員数名によるポップな踊りが披露

され、会場からの手拍子とともに大盛況でした。

会が最高潮に達したかと思われたころ、愛知県教育委員会学習教育部の荻原哲哉部長が韓国語で「サランヘ(愛してる)」と「カスムアプゲ(胸が痛い)」を歌うと、会場はほろりとした空気に変わり、韓国教職員の心を奪いさってしまいました。歌の途中からは荻原部長に日韓教員が寄り添い、共に熱唱しました。この様子は相互交流を象徴していました。

相手の言語による歌声にはおもてなしの心がたっぷりと込められており、その思いが通い合う印象的な場



マイクを手に熱唱する荻原哲哉部長と海江(ヘガン)高等学校キム・ボンリョン校長

面でした。国際交流において相手の言葉を使うことの価値を改めて見出す貴重な機会でした。

輝け未来！ユネスコスクールリーダーシップ研修

議論白熱、リーダーのあり方とは？

教育協力部 四方 八重戸

2月1日(木)、2日(金)に、パシフィコ横浜で「輝け未来！ユネスコスクールリーダーシップ研修」を開催しました。ファシリテーターの許勢仁美さん(グロービス経営大学院講師)、ゲストコメンターの住田昌治さん(横浜市立永田台小学校校長)をお迎えし、それぞれの資質を活かしたリーダーシップのあり方やリーダーシップの重要なスキルの一つであるファシリテーションスキルについて、ケーススタディを使ってロールプレイやグループディスカッションを通じて学びました。本研修には、全国から選抜された23

名のユネスコスクールの教職員が参加し、リーダーのあり方やユネスコスクールの活動について熱い議論が交わされました。

研修後も、学校に戻られてから本研修の学びを活かされたことなどについて、参加者用のメーリングリストで共有され、学びやつながりが継続されています。参加者からは、「このような研修を受けたことがなく、とても質の高い研修で、有意義な時間だった」、「また参加したい」との声が多くありました。今後、参加者が本研修で学んだことを活かしてリーダーシップを発揮されること

によって、全国のユネスコスクール活動がますます活性化することが期待されます。



全国から選抜されたユネスコスクールの教職員

2017年度国際教育交流事業報告会・交流プラン作りワークショップ

発見がもたらす教育現場の潤い

国際教育交流部 高松 彩乃

国境を越えた出会いと交流は、新たな発見を生む貴重な機会です。会の前半で行った2017年度の事業報告で紹介した動画の中で「日本の小学校で、使用済みのペットボトルなどを使った作品を見てインスパイアされ、『ごみから最高の作品を!』というプロジェクトを学校で実施しました」と語ったインドの先生のように、プログラムでの出会いと発見を自らの教育現場に還元できるような企画と、それを可能とする環境があることが理想です。

今回の報告会・ワークショップには、教員、ユネスコ協会関係者、

学生など様々な方が集まりました。ACCUからの事業報告を経て、学校での国際交流を想定したプランを考えるワークショップを行い、「魚をテーマに食文化や生物多様性を学ぶ国際協働学習」「グループに分かれて授業・部活体験、周辺散策」等のプランが共有されました。

先生方の感想からは、「短い時間では表面的な交流に終わるのではないか」「業務が忙しく、国際交流活動への参加に理解を得にくい」という懸念や現状もひしひしと伝わり、国際教育交流事業が多くの学校・先生方・子どもたちに資するもので



ワークショップの様子

あるためにACCUは何ができるのか、改めて考えさせられる機会となりました。

国際ESDワークショップ

持続可能社会のための学びの追求

教育協力部 藤本 早恵子

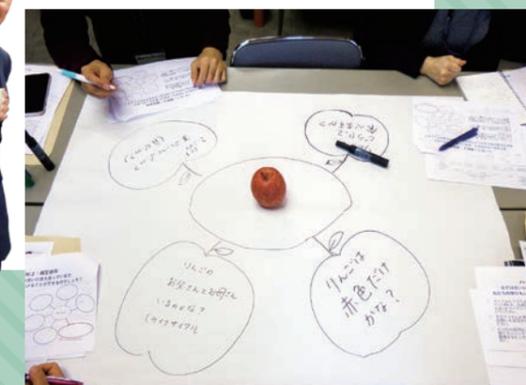
日頃それぞれの学校、地域でESD推進に携わられている方々に、幅広いネットワークを持つACCUだからこそできるユニークな学びの機会を提供したい。そんな思いから、昨年度に引き続き海外の優良実践を紹介する国際ESDワークショップを開催しました。講師は英国にある公立小学校のリチャード・ダン校長です。校長が自然との調和を追求する中で見出した7つの原則をベースに、日々の教育にいかにか持続可能性についての学びを取り入れているのか、参加者は時に生の魚や果物を目の前に置き、時に輪になって歌いながら

体感しました。皆あつという間にその世界観に引き込まれ、持続可能な未来について深く思いを巡らす時間となりました。

多くの参加者から「ESDの価値を改めて実感し、自分たちのフィールドで活かしていくヒントを得ることができた」と感想をいただき、私たちもACCUの強みを活かした質の高い事業展開をさらに目指していきたいと、意気込みを新たにしました。

リチャード・ダン校長

DATA
研修会名 国際ESDワークショップ
 ホールスクールアプローチで育む持続可能な未来—英国のESD優良実践校から学ぶ—
日時 2018年1月27日(土)
講師 英国アシュレイ小学校(Ashley Primary School) 校長 リチャード・ダン(Richard Dunne)氏
参加者数 約60名



*2016年開催のワークショップを特集した以下の出版物で詳細をご覧いただけます。『キラリ発進！サステイナブルスクール〜ホールスクールアプローチで描く未来の学校〜』ユネスコスクール公式ウェブサイトのメニュー「教材ルーム」からダウンロード可能です。P11でもご案内しています。

GAP パートナー会合 in コスタリカ

～世界各地のパートナーと ESD の未来を考える～



ACCU 活動メモ

2018年1月～5月 ①実施期間 ②主催、共催団体名 ③開催場所 ④参加国、参加者数



リラックスした環境でグループワーク

ACCUはユネスコのキーパートナーとして、グローバル・アクション・プログラム(GAP)の中の「機関包括型アプローチ」の分

野において、持続可能な開発のための教育(ESD)の推進に寄与しています。去る4月25～27日、GAPパートナー・

ネットワークの第3回年次会合がコスタリカで開催され、ACCUからも2名の職員が参加してきました。今回の会合では、パートナー間のネットワーク強化や情報共有のみならず、最前線でESDを推進する世界中のメンバーが2019年GAP終了後の方向性について熱い議論を交わしました。また、ネットワーク設立から3年目を迎えるともあって、会場は始終和やかな雰囲気につつまれていました。

会議の舞台となった国連平和大学は、「すべての人々に相互理解、寛容、平和共存の精神」を育むことを目的に、1980年に設立された高等教育機関です。隣接する平和公園から吹き抜けるさわやかな風と鳥の囀りにつまれ、ESDの未来に想いを馳せる最高の場となりました。

教育協力部 若山 洋子

韓国教職員招へいプログラム

詳細…P8

①1月16日(火)～22日(月) ②国際連合大学、ACCU ③東京、④約97名

ESD推進のための研修会 in 広島

①1月25日(木) ②文部科学省、ACCU ③広島 ④43名

国際ESDワークショップ

詳細…P9

①1月27日(土) ②文部科学省、ACCU ③東京 ④約60名

平成29年度日本/ユネスコ パートナリシップ事業推進委員会

①1月28日(日) ②ACCU ③日本出版会館 ④11名

輝け未来! ユネスコスクールリーダーシップ研修

詳細…P9

①2月1日(木)～2日(金) ②文部科学省、ACCU ③横浜 ④23名

ユネスコスクール年次活動調査 第2回ワーキング・グループ会合

①2月13日(火) ②ACCU ③日本出版会館 ④4名

国際教育交流事業報告会・ワークショップ

詳細…P8

①2月28日(水) ②国際連合大学、ACCU ③日本出版会館 ④16名

GAPパートナーネットワーク会合

詳細…P10

①4月25日(水)～27日(金) ②UNESCO ③コスタリカ ④38か国97名

高校模擬国連国際大会 インフォメーション・セッション

①4月15日(日) ②ACCU、グローバル・クラスルーム日本委員会(JCGC) ③日本出版会館 ④参加高校生11名他約30名

UNESCOアジア太平洋 GCEDネットワークミーティング

①5月2日(水)～4日(金) ②UNESCO ③ジャカルタ(インドネシア) ④57名

高校模擬国連国際大会派遣

詳細…P6

①5月8日(火)～14日(月) ②ACCU、GCJC ③ニューヨーク国連会議場他(米国) ④高校生11名

奈良 文化遺産セミナー 「よみがえる古都奈良の大塔」

①1月13日(土) ②ACCU奈良事務所 後援:奈良県、奈良市 ③奈良 ④300名

奈良 世界遺産教室

①5月1日(土) ②ACCU奈良事務所 ③奈良県立一条高校 ④40名

ACCU出前授業

新宿区立愛日小学校で出前授業

「幸せな瞬間はどんな時?」という問いを6年生の子どもたちに投げかけました。「寝る時」「褒められた時」……。

次に「(グループで)幸せな村を描こう」という問い、山を描く子、ビルやロボット、車、神様を描く子、それぞれのグループで特色のある村が描きあがりました。

実はこのワークショップは、ACCUがアプローチは変われど問いは変えず継続し実施してきたワークショップです。幸せな村と問われ所謂「大人」は、ほとんどの場合自然がいっぱいの「故郷」を描く傾向にあります。しかし、「子どもたち」は全く異なる価値観を持って幸せな村を描く傾向にあります。「幸せな社会」は、本来多様な価値観を持つ人々の協働によって創り出されます。そんな時に必要な「平和のとりでを築く」ための学びは何かを考えさせられる時間でした。

2017.11月 教育協力部 篠田 真穂

※2015年から毎年行っている。

ACCUの識字教材活用

「ミナ笑顔」を教材に

静岡県富士宮市立富士根南公民館にて、放課後児童クラブの1年生から4年生までの生徒の70名と指導員を対象に、「遠くて近いトルコと日本」と題して講演を行いました。日本とトルコの生活・文化の違い、日本文化の魅力、異文化理解の大切さなどをトルコで撮影した写真などを示しながら説明しました。

プログラム中に識字をテーマにしたアニメーション「ミナ笑顔」(ACCUの識字教材)の上映を行い、児童が外国と日本における教育・生活環境の違いなどについて理解を深めました。世界には、学校へ通うことが出来ない子ども、また、文字の読み書きが出来ない子どもがいることを彼らなりに受け止めたようです。

後半は、子供たちが新聞紙でカブト作りチャレンジして、「折り紙」が日本の伝統文化であること、そしてコミュニケーション・ツールになることを理解しました。

2017.8月 元JICAシニア海外ボランティア 児玉 美香



※今年も富士宮市の依頼で授業が行われる。

アジア 幸福度の高い コスタリカの原点にふれる

東奔西走 第14回 番外編・コスタリカ

国連平和大学 平和教育専攻 高野 清美 (元ACCUプロジェクトスタッフ)



コスタリカ国内使用電力のほぼ100%が再生可能エネルギーで賄われている

コスタリカ、この国がどこにあって、どんな世界が広がっているかご存知でしょうか。

南米を繋ぐ中米パナマの北西部に位置し、大きさは九州と四国を合わせたほど。人口は約480万人の小さな国です。

私がこの国の大学院に通い始めて10か月が経とうとしており、だいぶコスタリカの文化について知れたような気がしています。

幸福度が高い国。経済的側面から見ると決して栄えているとは言えませんが、個人的に「Pura Vida」という考え方がこの国の幸福度を高めていると思います。このPura Vidaを直訳すると「純粋なる人生」。他のスペイン語圏にはない、コス

タリカ人特有の言葉です。彼らは挨拶を交わすとき、人に声をかけるときこの合言葉を口にします。人々はその言葉を交わすとき、普通ならショックを受けてしまうようなことも、Pura Vidaと声を掛け合い、残念な出来事も笑い飛ばします。コスタリカ人はあまり物事を深く気にせず、いつも楽しそうです。バスによっては運転手好みのラテン音楽が流れていたります。

とても平和な国。軍隊を一切持たない

国であり、軍事費にかつて当てていた予算は軍事を拒否して以降、教育費に当てられています。また、エコツーリズム発祥の地でもあるこの国は、電力の大部分を再生可能エネルギーでまかっています。自然環境が豊かで、私の学ぶ大学敷地内にもたくさんの蝶や極彩色の鳥たちがいます。

中米コスタリカ、ぜひ訪れていただきたい国の一つです。

* <http://www.unesco-school.mext.go.jp/>